

2014年5月23日

2013年度採択 研究の国際化推進プログラム 研究成果報告書

採択者 (研究代表者)	所属機関・職名：先端総合学術研究科・教授 氏名：西成彦
研究課題	生存学の東アジア的展開に向けた国際学術研究交流会

I. 国際的研究成果発信の目的・意義の概要

今次の国際的研究成果発信の目的・意義について、概要を記入してください。

申請者が2014年3月まで代表を務めた「生存学研究センター」は、「障害・老い・病い・差異をもつ人々と暮らす世界」の構築という課題に対して、領域横断的に取り組んでいる。これらの研究活動やその成果について、英語・韓国語を中心としたウェブページやメールマガジンの発信、英文ウェブジャーナルの発刊、国際学術研究交流会の実施等を通して、国際化に注力してきた。2013年度は、本プログラムの助成により、東アジアに向けた「障害・病い」領域に関する研究成果の発信につとめるとともに、学術研究会を開催することによって、これまで形成してきた連携機関との関係を強化し、生存学の東アジア展開の橋頭堡とすることを旨とする。

また、本プログラムの助成を得て、これまで本センターが取り組んできた「障老病異」をもつ人々の生存にアプローチする研究蓄積の成果を、学術的かつ国際的に発信することで、生存学を広く社会に敷衍する意義がある。この取り組みを通じて、「生存学」独自の視座を広く提示し、国内外の学界における既存の学問領域の枠組みにインパクトを与える。さらに、生存学研究に参加する研究者・組織を国際的に獲得していくことで、生存学の国際的な展開、特に東アジアでの強い基盤を形成することができる。

II. 国際的研究成果発信の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

国際的研究成果発信

本プログラムの助成によって、①韓国の障害当事者団体を中心とした障害学フォーラムとの「障害学国際セミナー2013」、②テグ大学校大学院社会福祉学科 BK21PLUS 事業団との「地域社会基盤の社会福祉サービス制度に関する研究会」、③ハンリム（翰林）大学校生死学 HK (Humanities Korea : 人文韓国) 研究団との「翰林大学生死学研究所×立命館大学生存学研究センター研究交流会」の3つの研究交流会を開催することができた。また、これらの研究交流に関する成果として『日韓研究交流活動2013報告書』を刊行した。

今後の展開計画

①障害学フォーラムとはすでに研究協定を締結しており、同協定にもとづいて2014年11月に韓国・ソウル市内にて「障害学国際フォーラム2014」を開催予定である。生存学研究センターでは本プログラムに加え、2013年10月に「中国と障害者に関する研究会—中国の市民社会における障害者の権利条約への取り組みに焦点をあてて」を開催するなど、中国の障害者団体との研究交流もすすめており、「障害学国際フォーラム2014」において日韓中の3カ国が参加する「生存学の東アジア展開」を推進する。②テグ大学および③ハンリム大学については、研究会前後に研究交流に関する会議をもつことによって2014年度内に研究協定を結ぶ合意を形成することができた。協定締結後、本格的な研究交流を開始する。